

## おいしいん防災コミュニティ部会がいく！

(第55回 2022年12月)



子どものころ、よく『童話』を読まされた。中には面白い話もあったが、おいしいん防にとって納得いかないものも多かった。たとえば【裸の王様】。クライマックスで「王様は裸だ！」と叫んだ少年は、純真だから真実が見えるのだと解釈されている。本当にそうか？



王様が裸でパレードする姿は、民にとってこの上ないエンタテイメントだったに違いない。それを『空気が読めない』少年の一言がぶち壊したのだ。面目をつぶされた王がその後どんな報復行為に出たか、想像するだけで恐ろしい。おそらく王国には血の雨が降ったことだろう。これすべて1人のガキのせいなのだ。

【アリとキリギリス】にも最初から違和感を覚えていた。どうやら『働らかざるもの食うべからず』という教訓らしいのだが、ちょっと待て。労働だけに価値があるのか？キリギリスが象徴する芸術も、人生には必要なのではないか。

僕がアリならキリギリスを追い返したりしない。喜んで楽に招いて、食べ物を与える。そのかわりにコンサートをしてもらい、全員で楽しむのだ。絶対にこっちの方が正しい解決法だろう。

小さいころのおいしいん防は、大人になったらアリよりもキリギリスのような生き方がしたいと思っていた。だからキリギリスに感情移入して、アリの冷たい仕打ちには殺意すら感じたものだ。それは今も変わらない。



要は、人生には食べるための労働と、娯楽の両方が必要ということ。防災でも同じである。災害への備えは、人の命がかかったきわめてシリアスな活動だが、真面目に研修や訓練に取り組んでいるだけでは長続きしない。『楽しさ』を取り入れてこそ、防災はより深く広く普及するのである。おあとがよろしいようで。



### TOPICS

#### ☆市辺地区の『減災連絡会議』がやってきた！

先々月に潜入した『市辺地区減災連絡会議』。捕まって拷問を受けたおいしいん防は…もとい、親交を深めた結果、今度は向こうが湖東を訪ねてくる運びとなった。舞台はこと防の全体研修。今年度のテーマである「誰も取り残さない防災」にいち早く取り組

んでいる市辺地区に事例発表をしてもらうことになったのだ。

乗り込んできたのは、市辺地区減災連絡会議座長の榎木貞夫氏（ダンディ）。東市辺自治会長の谷正和氏（実直）。西市辺副自治会長の森稔之氏（熱血）。そして市辺まち協事務局長の柴田俊幸氏（ジェントルマン）の総勢4名である。お題は『市辺地区“減災の街づくり”取り組み事例紹介』。

最初の打ち合わせでは、「皆さん合わせて1時間くらいでお願いします」と言ったところ、「えー、そんな長くしゃべれないよ。せいぜい1人10分くらいかな」

ところがふたを開けてみると……まあしゃべるしゃべる。10分どころか、20分が過ぎて終わらない。講演の後で20分ほどブロックごとの話し合いをする予定だったが、できないままで終わってしまった。

とにかく熱い方たちでした。あの熱意にはホント頭が下がります。ああいう人がリーダーシップをとれば、物事は進んでいくのだろうなと思いました。1人が頑張ってるだけじゃなく、いっしょに行動する仲間もちゃんと揃っているのでしょう。この熱意を注入されて行動する人が湖東地区にも現れることを願っています。



↑これが市辺(熱い!)4人組

### ☆出前講座で『イメージ TEN 小田苅版』を実施！

コロナの影響で出前講座の機会がめっきり減っていたが、小田苅町からお座敷がかかった。ここは前から熱心なところで、DIG（災害図上訓練）や防災マップ作りでも何度も行っていた。また同じことを繰り返してもなーという思いから『イメージ TEN』を提案したところ、やることに。



『イメージ TEN』は、防災先進地である静岡県で考案された災害対応模擬体験のツール。本式をやると2～3時間かかるので、いづらか簡略化した『小田苅版』で実施。広域の大地震が発生したという状況のもと、小田苅町に立ち上がった『災害対策本部』に参集した役員という設定で、グループを組んでもらった。それぞれのテーブルには、小田苅町の地図と、手持ちの災害備品や人員のリストがある。

開始とともに、進行役から課題（行方不明者！家屋倒壊！火災発生！などなど）が与えられ、それへの対応をグループで話し合う。本部は自ら動けないので、指示をしなければならぬ。どんな指示を出して誰を派遣するかを決めるわけだ。

課題は次々と与えられるので、話し合いはスピーディに行わねばならない。短時間で様々な決断をするのはなかなかハード。しかも情報は限られている。備品は実際にある

ものしか使えない。

最初は戸惑いも見られたが、ルールに慣れてくると熱い議論が勃発！ 地図に身を乗り出して検討する姿は、まさに災害現場を彷彿とさせる！

ここでした決断に**模範解答はない**。災害の状況は二つとして同じものがないから。『イメージ TEN』はあくまで模擬体験なので、実際の現場とは違いも大きいだろう。しかしこれを体験することで、**事前にどんな備えが必要かや、地域の課題が見えてくる**。おススメの出前講座です！

### 今後の活動予定

12月 6日 災害支援市民ネットワークしが研修 (内容未定)

1月20日 こと防第三小ブロック会議

30日 こと防支所ブロック会議

未定 こと防の他のブロック会議も続々開催予定

※ 出前講座の申し込み受け付けます！



### 勝手にQ&Aコーナー

Q：市辺地区の発表を聞きましたが、個別避難計画を作るために具体的にどこから始めればよいか、もう一つハッキリしません。

A：市から自治会長に提示される「要援護者リスト」は、完全なものではありません。民生委員はもっと詳しい情報を持っていますが、守秘義務があるので外に出せません。まずはより完全に近い『要援護者（自力では避難が困難な人）リスト』を作ることから始めてはいかがでしょうか。



Q：童話の話が出てきましたが、私は【うさぎとかめ】が納得できません。

A：うーむ、確かに。うさぎはなぜゴールしてから昼寝しなかったのか。あの話の教訓は「絶対に勝てる勝負でも油断するな」だよな。

楽しい質問、お待ちしております！



(文責：こじまっちょ)